

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・57〉 いわき市立 汐見が丘 小学校
〈実施日〉	平成 27年 11月 26日 (木)
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()
〈実践内容〉	<p>検査の対象者である子供たち自身が、今年度、第2回目の甲状腺検査を受診するにあたり、甲状腺検査の目的や検査を続ける意味や結果の見方などを正しく理解し、長く続く検査の受診について自分自身で判断できるようになることが大切であるという考えから、出前授業をお願いした。</p> <p>○日時・・・平成27年11月26日(木) 13:30~14:15(45分間)</p> <p>○場所・・・いわき市立汐見が丘小学校 体育館</p> <p>○人数・・・5、6年生 計90名 教職員6名</p> <p>○講師・・・独協医科大学 放射線科核医学部門 橋本 禎介 教授</p> <p>○スタッフ・・・甲状腺検査室 佐藤 綾子 技師 広報推進室 田中成省 室長</p> <p>○内容・・・甲状腺とは何か・どうして甲状腺を調べるのか 甲状腺検査の手順・どんなことを検査しているのか 検査結果で何がわかるのか・検査結果から伝えたいこと 超音波について・デモンストレーション</p>
〈成果〉	<p>○専門の方に話をしていただいたので、児童だけでなく教職員にとってもよい学びの機会となった。</p> <p>(児童アンケートより)</p> <p>○1回目の甲状腺検査の時は、何のために検査を行っていたのかを知らなかった児童が多かったが、何のために検査をしているのか、なぜ必要なかを理解することができた。</p> <p>○「のう胞」「放射性ヨウ素」などの聞きなれない言葉は、具体例を出したり、写真や図を使ったりして説明して下さったので、児童はわかりやすかった。</p> <p>○検査結果について、福島県の児童のほとんどがA判定だということと、二次検査を受けてもほとんどが良性であること、手術をすれば甲状腺がんは治ることが多いということを専門の方から教えていただいたことにより、安心できた児童が多かった。</p>
〈課題〉	<p>○放射線の影響は、長い時間が経たないとわからないことなので、「今回が大丈夫だからもう安心」ではなく、継続して検査を続けていくことが大切だということを伝えていく。</p> <p>○放射線に関する考え方は、各家庭で違うので、担任が話をする際には言葉や伝え方に細心の注意を払う必要がある。</p>
資料作成担当者職(教諭)氏名	(狩野 由李) (鈴木 真一)
学校電話番号	(63-8773)

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月~平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)